

Ⅲ. 現在の検討状況

1. 想定機能に対する現在の検討状況と方向性(1/5)

基本構想で整理したSW施設の想定機能に対して、項目ごとの検討状況や方向性について以下に整理します。

①機能を想定する上での基本的な考え方

検討項目・視点		現在の検討状況・方向性
ア	複合化・多目的化の視点	・面積効率や利便性及び魅力を向上する手段として引き続き検討
イ	既存施設等の活用の視点	
ウ	一部機能の民設民営化の視点	・市場調査の結果、商圈人口及び事業条件(学校利用の受入れ前提)に対して建設コスト等が見合わないため、 <u>市民プールの民設民営化は困難である</u> ことがわかった。 ・ <u>運営の独立採算方式についても困難であるという意見が大半</u> であったが、 <u>利用料金設定の自由度や学校利用の対価次第</u> との意見も寄せられたことから、引き続き財政負担低減策として可能性を探る。

1. 想定機能に対する現在の検討状況と方向性(2/5)

基本構想で整理したSW施設の想定機能に対して、項目ごとの検討状況や方向性について以下に整理します。

②体育施設として求められる機能の想定

検討項目・視点		現在の検討状況・方向性
ア	これまで総合体育館や市民プールが担ってきた競技スペースは可能な限り維持する。	・総合体育館・市民プールの利用状況分析からも、市民利用(「する」スポーツ)がメインである。 ・SW施設の諸室規模についても、従前の利用に対応できるものとしつつ、現在の競技規則等に則した面積として、下表のとおり想定した。 ・想定面積について配置上実現可能であることを確認しており、市場調査においても各面積は妥当であるとの回答を得ている。
イ	原則、市民利用を想定した規模とする。	

■各機能の想定規模

機能	想定規模	検討方針
メインアリーナ(大体育室)	1,500㎡程度	・ バスケット2面、バレー2面、バドミントン8面、卓球10面、ソフトテニス2面 ※すべて公式想定
サブアリーナ(小体育室)	700㎡程度	・ バスケット1面、バレー1面、バドミントン3面、卓球6面※すべて公式想定 ・ 「子どもの遊び場」との一体利用も想定
柔剣道場	500㎡程度	・ 空手や柔道、剣道の競技用床2面を想定
弓道場	400㎡程度	・ 近的3人立×2として屋上配置(矢道部分は屋根なし想定)
屋内プール	800㎡程度	・ 学校プール授業を考慮し25m×8コースを想定
トレーニング室	250㎡程度	・ 民営化を想定した施設規模として広めに設定

1. 想定機能に対する現在の検討状況と方向性(3/5)

基本構想で整理したSW施設の想定機能に対して、項目ごとの検討状況や方向性について以下に整理します。

③誰もが楽しめる魅力的な機能の検討

検討項目・視点		現在の検討状況・方向性
ア	子どもの遊び場・居場所機能	・「これまでにない体育施設」のメイン機能として、サブアリーナと連携する形で400～500㎡程度を確保することを想定。 ・市場調査の結果、コンセプト案に理解を示す事業者も多く、規模も概ね妥当であるとの回答を得ていることから、今後の事業者提案に期待する。 ※コンセプト案等について「Ⅳ. 子どもの遊び場機能について」で掲載
イ	新たなジャンルのスポーツへの対応	・デジタル系の運動については、市場調査の結果、多目的室で対応することが望ましいとの意見があった。 ・会議や運動などにも柔軟に活用できる多目的室を確保することとし、そこで実施が想定される新たなジャンルのスポーツへの対応について、今後の事業者提案に期待する。
ウ	オープンな交流スペース	・現在想定している施設規模であれば500㎡程度の確保が可能。 ・配置の工夫等により一定規模の確保は必要。
エ	飲食提供機能	・運動しない日も訪れたくなる要素のひとつとして、今後の事業者提案に期待する。
オ	東北随一の文化交流拠点としての機能	・施設の魅力向上や、他施設との連携等による交流人口の増加策について引き続き検討する。

1. 想定機能に対する現在の検討状況と方向性(4/5)

基本構想で整理したSW施設の想定機能に対して、項目ごとの検討状況や方向性について以下に整理します。

④防災拠点施設としての機能の充実・強化

検討項目・視点		現在の検討状況・方向性
ア	避難所としての活用	・施設の位置や規模、性質から指定避難所としての活用は必須。 ・備蓄倉庫を施設内に100㎡程度想定。 ・停電時の自家発電設備を想定。 ・他施設との機能連携や、さらなる機能充実・強化策については施設の運営方針と合わせて今後検討する。
イ	市庁舎や文化センターとの機能連携	
ウ	災害時の拠点としての機能充実・強化	

1. 想定機能に対する現在の検討状況と方向性(5/5)

基本構想で整理したSW施設の想定機能に対して、項目ごとの検討状況や方向性について以下に整理します。

⑤建物全体として配慮すべき事項等

検討項目・視点		現在の検討状況・方向性
ア	災害時の利用を想定した施設設計	・ 災害時に避難所等として利用することを想定し、避難者の受け入れ、居住性や物資の搬出入を考慮した設計とする。
イ	コストを意識した効率的な施設配置	・ 「縮充」の観点を踏まえ、限られた面積で最大限の効果を発揮し、ライフサイクルコストを抑制できる効率的な配置を検討する。 ・ 脱炭素社会の実現及びライフサイクルコストの削減の視点をもって、設備の省エネルギー化や再生可能エネルギー設備の導入を図るとともに、ZEB化についても検討する。
ウ	脱炭素化推進の視点	
エ	ユニバーサルデザインの視点	・ だれもが安全に、安心して過ごせる場として、多くの市民等にとって利用しやすい施設を目指し、ユニバーサルデザインの視点をもって整備・運営を行う。
オ	景観への配慮と本市の魅力向上の視点	・ 周辺の景観等に配慮しつつ、多くの市民が親しみを感じられ、ふらっと立ち寄りたくなる雰囲気重視した建物外観とし、魅力向上を図る。

2. その他検討が必要な項目に対する検討状況と方向性

その他検討が必要な項目について、検討状況や方向性について以下に整理します。

検討項目・視点		現在の検討状況・方向性
ア	交通アクセス及び駐車場の確保	・現在の施設規模で、敷地内に概ね120～140台程度の駐車場を確保可能であることがわかった。 ・市場調査では、普段利用に対しては概ね必要十分であるとの回答を得た。 ・ただし、イベント時には駐車場が不足することが想定されるため、周辺エリアを含めた駐車場確保策について検討を継続する。 ・立地を活かしたアクセス手段(公共交通等)についても引き続き検討する。
イ	適切な事業費の算定及び財源の確保	・これまでの検討により、各種機能に対する施設の規模感を想定することができた。 ・現在、市場調査により参考見積を徴取中。 ・今後、参考見積をもとに想定事業費を算定するとともに、より有利な財源確保策について検討する。
ウ	事業手法の検討及び事業スケジュールの精査	・市場調査では、運営者の意向を設計に反映できるPFI(BTO)やDBOが望ましいとの回答が得られた。 ・今後、想定事業費を算出し、各事業手法ごとの定性・定量評価による最適な事業手法を探るとともに、事業スケジュールを精査する。